「限定」を表すとりたて詞「ばかり」の意味・機能と構文的特徴
Meaning, function, and constructional features of the focus particle (limitation)"*bakari*"

陳　泳サン
CHEN,Yongshan

摘要

In this paper, we reclassify the meaning of "*baakri*" which expresses "limitation”and describe the constructional patterns that support each meaning.First, depending on whether it is the existence of things/people or the occurrence of actions/events that "*bakari*" limits, the meaning of "*bakari*" was largely divided into "exclusive multiple existences" and "exclusive repetitive actions". In addition, "normal repetitive action," "one-way progression of change," "final stage of flow," and "unity of choice" were established as subtypes of "exclusive repetitive action. In addition, the constructional patterns used to interpret each meaning were extracted. The constructional patterns used in "exclusive plurality" were existence constructions and place-occupying constructions. In addition, the constructional pattern "*bakari*", which expresses the meaning of "exclusive repetitive action", is basically postfixed to the action verb, but three constructional patterns were extracted as constructional patterns that stand out in the sentence: repetitive action, characterization, and negative evaluation, which highlight the feature of N that it is postfixed to a noun.Next, the relationship between each meaning and focus was clarified. In this paper, the focus of "*bakari*" is divided into direct focus, which focuses on the immediately preceding element, and expanded/reduced focus, which focuses on a noun phrase or predicate phrase located away from the immediately preceding element. The “exclusive multiple existences” always takes direct focus. The focus of the "exclusive repetitive actions″ was analyzed separately according to whether the antecedent was a noun or a verb. If the antecedent of "*bakari*" is a verb and the contrasting situations share a predicate of similar meaning, "*bakari*" focuses on the noun phrase co-occurring with the predicate, resulting in an expanded or reduced focus. In contrast, if the preceding and following predicates do not share the same meaning, "*bakari*" focuses on the situation expressed by the antecedent verb, which is a direct focus. When the antecedent of "*bakari*" is a noun, the two verbs in the preceding and following context share the same kind of meaning, and the element that "*bakari*" focuses on is the noun phrase that co-occurs with the antecedent predicate, resulting in direct focus. If the cognate predicate does not share the same kind of predicate, the "*bakari*" focuses up to the predicate, resulting in an expanded or reduced focus.

キーワード：*とりたて詞　ばかり　意味　構文的特徴　フォーカス*
Keywords: focus particle　*bakari*　meaning　constructional feature　focus

１．はじめに

茂木（2002）では、「限定」を表す「ばかり」を、「一時点の空間に複数のモノがある」ことを表す〈存在〉解釈と、「コトの多回的反復」を表す〈反復〉解釈とに分けている。

（1）　冷蔵庫にはビールばかり入っている。　（茂木 2002: 173,（6b））　［存在］
（2）　僕ばかりが廊下に立たされた。　（茂木 2002: 173,（6a））　［反復］

（1）では、「冷蔵庫」に「ビール」が数多くあること（「存在」）を表す。これに対し、(2) は「僕が立たされた」という動作が繰り返して起きる（「反復」）という意味を表している。

この「存在」の意味と「反復」の意味に解釈される場合の、「ばかり」がフォーカスする（とりたてる）要素は異なる。さらに、同じ意味であっても、「ばかり」がフォーカスする要素が同じとは限らない。例えば、(3) での「ばかり」がフォーカスする要素は「アニメ」であるのに対し、(4) での「ばかり」がフォーカスするのは「アニメを見ている」という動作である。

（3）　彼はニュースを見ずに、アニメばかりを見ている。　［反復］(1)
（4）　彼は宿題をやらずに、アニメばかりを見ている。　［反復］

「存在」と「反復」の意味は先行研究で指摘されているが、フォーカスとの関係は未だ明らかにされていない。そのため、本研究では、「ばかり」のフォーカスについての考察を加え、「限定」の意味を表す「ばかり」の意味を細分類した上で、それぞれの意味を支える構造的特徴を記述する。さらに、フォーカスと「ばかり」が表す意味の関係を明らかにすることを目的とする。

２．先行研究

「限定」の意味を表すとりたて詞「ばかり」については数多くの研究がある。小林（2003）は、様々な形態の動詞に後続する「ばかり」を分析し、「ばかり」が表す意味について記述した。澤田（2007）は、主格名詞句に使用される「ばかり」を観察し、「ばかり」の機能をまとめている。中西（2012）は、コーパスから実例を収集し、母語話者と学習者による「ばかり」の使用実態を明らかにした。しかし、いずれも限られた「ばかり」の用法のみを扱い，網羅的な意味･用法の記述にはなっていない。さらに、構文とフォーカスの関係について言及していない。

沼田（2000、2009）は、「ばかり」の統語論的特徴をまとめ、とりたて詞のフォーカスに次の３種類があると述べている。

(5)　a．直前フォーカス（N フォーカス）

ご飯他[2]をろくに食べずに、〈辛いおかず〉自ばかりを食べていたから喉が渇いた。

b．後方移動フォーカス（B フォーカス）

〈代金だけもらって〉自、仕事をしない他。

c．前方移動フォーカス（F フォーカス）

ご飯他[1]をろくに食べずに、〈辛いおかず〉自を食べてばかりいたから喉が渇いた。

（沼田 2000：167-8）

一方で、沼田（2000、2009）では、どのような構文パターンにどのようなフォーカスが現れうるかという相互関係については考察されていない。

「ばかり」のフォーカスと構文に関する研究には、茂木（2002）がある。茂木（2002）は、「ばかり」の意味を〈存在〉と〈反復〉に分類し、それぞれの意味に分類される際に用いられる構文について簡単にまとめている。さらに、位置変化他動詞が述語となる文では、「ばかり」が〈存在〉と〈反復〉の２つの解釈が得られると述べている。しかし、「ばかり」の意味が〈存在〉と〈反復〉のどちらに解釈されるのか、つまり「ばかり」がフォーカスする要素は何かを判断する条件については言及されていない。茂木（2002）の記述によると、「ばかり」が〈存在〉と〈反復〉のそれぞれの意味に解釈される際に、「ばかり」がフォーカスする要素と対比される他の要素は異なる。

(6)　男性が右の棚に本ばかりを置いた。

a．男性が右の棚に本ばかりを置いて、他のものを置かない。　〈存在〉

b．男性が右の棚に本ばかりを置いて、他のことをやらない。　〈反復〉

（茂木 2002：182-3 による作例）

(7)　a．毎日寝てばかりいる気がする。

b．本ばかり読まないで、外で遊んでこい！

(6)(7) からわかるように、「ばかり」がフォーカスする要素を決める際には、単に前接語の特徴だけでわかる文もあれば、構文環境と前後文脈によって判断される文もある。

そのため、本研究では、コーパスから例文を収集し、「ばかり」の使用実態を網羅的に観察し、「ばかり」の意味と構文パターンを細分類する。それによって、「ばかり」のフォーカスと構文の対応関係、そしてフォーカスを決める条件を明らかにする。

３．「ばかり」の意味と構文的特徴

本節では、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下 BCCWJ）から収集した例文、及び作例も用いながら考察していく。なお、以下の考察では,「～ばかりでなく」、「～ばかりか」、「～ばかりに」、「今度／今回ばかりは」などの固定的表現は、分析対象[3]から除い

た。

3．1．本研究における「ばかり」の意味分類と構文的特徴

本研究では、BCCWJ から抽出した用例を用いて、ぞれぞれの構文パターン及び表す意味を整理した。まず、茂木の分類を踏襲し、「ばかり」が表す意味を大きく「排他的複数存在」と「排他的反復動作」の２種類に分けた。「排他的複数存在」の下位タイプには、「存在」と「場所占有」、「時間占有」がある。「排他的反復動作」には、「通常の反復動作」、「変化の一方進行」、「一連の出来事の最終段階」、「選択肢の単一性」という下位タイプを立てた。次に、「通常の反復動作」の構文バリエーションとして、N の特徴を際立たせる反復動作と、特徴づけ、マイナス評価を取り出した。さらに、「ばかり」のフォーカスが前接語とそれぞれの意味に解釈される構文の前後文脈にある要素と関係があると考えるため、構文パータンを詳しく分類し記述した。なお，全体の分布傾向を見るために，無作為に抽出した 500 例について，各タイプの用例数と割合を括弧内に示した。

A．排他的複数存在

A1.存在：［場所］ニ　N（具体物・人）　バカリ　ガ　V（存在性動詞）（130／26%）

［教室に入ると、女の子ばかりがいた。］

a1-1.N の存在の焦点化：V ノハ　N（具体物・人）　バカリ　ダ。（20／4%）

［教室にいるのは男子ばかりだ。］

A2.場所占有：［場所］ハ　N（不特定多数の具体物・人）　バカリ　ダ。（16／3.2%）

［昼間のバスは老人ばかりだ。］

a2-1.特徴づけ：N1（不特定多数の具体物・人）　バカリ　ノ　N2（場所）（21／4.2%）

［女ばかりの家］

A3.時間占有：［時間］　ハ　N（不特定具体物・人）　バカリ　ダ。（3／0.6%）

［昔は深めのものばかりでした。］

B．排他的反復動作

B1.通常の反復動作：V（動作動詞スル／シテイル）　バカリ　ダ。（48／9.6%）

［彼は文句を言わずに、ひたすら仕事に打ち込むばかりだ。］

b1-1.N の特徴を際立たせる反復動作：N-バカリ-格助詞　V（189／37.8%）

［かわいい子ばかりが選ばれる。］

b1-2.動作の反復による特徴づけ

①N1（動名詞）　バカリ　ノ　N2（3／0.6%）

［喧嘩ばかりの親子］

②Vテ　バカリ　ノ　N（4／0.8%）

［フラれてばかりの人生］

b1-3.高頻度のためマイナス評価を伴う反復動作：

①Vテ-バカリ-イル（25／5%）

［彼は遊んでばかりいる。］

② N（動作性動名詞）／Vテ　バカリ　デ、〈マイナス評価〉（11／2.2%）

［最近は外食ばかりで太った。］

b1-4. その他の通常の反復動作（1／0.2%）

B2.変化の一方進行：V（方向性のある変化動詞のスル形）バカリ　ダ。（23／4.6%）

［株は上がるばかりだ。］

B3.一連の出来事の最終段階：[済まされた事項]。あとは、V（意志動詞スル形）　バカリ　ダ。（3／0.6%）

［できることは全部やった、あとは結果を待つばかりだ。］

B4.選択肢の単一性:[他にできることの存在の否定]。ただ V(スル形)バカリ　ダ。(3／0.6%)

［今はただその子のご冥福をお祈りするばかりです。］

3．2.「ばかり」の基本的な意味特徴

「ばかり」が表す基本的な意味特徴は「複数性」と「排他性」であると考えられる。

「複数性」とは、「ばかり」に取り立てられるのがもの・人であるならその複数性を表し、動作・出来事であるなら繰り返して反復することを表す。

「排他性」とは、「ばかり」に取り立てられる要素以外の他の要素を排除するという意味である。奥津（1974）では、とりたて詞は他を排してそれのみを取り立てる場合があると述べている。しかし、「ばかり」が表す「排他性」は完全な排他ではなく、取り立てられる当該要素以外にも、他の要素の存在をわずかに認める。定延（2001）も「ばかり」は夾雑物を許容しやすいと述べている。定延（2001：113）は（8a）を使う時、「先週の食事は厳密にすべてうどんである必要はなく、うどん以外のものが混じっても良い」と判断されるとする。それに対し、(8b)は「先週はうどん以外何も食べなかった」という解釈になる。

(8)　a．先週はうどんばかり食べた。

b．先週はうどんだけを食べた。　　（定延 2001：113）

以下、それぞれの意味と構文を詳しく記述していく。

3．3．排他的複数存在の意味を表すバカリ

「ばかり」がもの・人を限定する時、ある場所に存在する全てのもの・人が全体の集合として想定され、「ばかり」に取り立てられるもの・人が全体の大多数を占めることを表す。そのた

め、集合内における他のメンバー（「ばかり」に取り立てられるもの・人と範列関係にある他のもの・人）の存在が希薄になり、排他的意味を帯びる。沼田（2009）も「ばかり」の限定の意味を「主張：自者−肯定　含み：他者-否定」と述べているように、「ばかり」がもの・人を限定する際には、単に存在の複数性だけではなく、排他的な意味も含まれているため、これを「排他的複数存在」と名付ける。

「排他的複数存在」の意味を表す「ばかり」の構文には大きく 3 つのパターンがある。ある場所にもの・人が数多く存在するという存在構文と、場所がもの・人に占められているという場所占有構文と、時間がもの・人に占められているという時間占有構文がある。

「排他的複数存在」の意味と解釈される「ばかり」がフォーカスするのは、「ばかり」に前接する名詞の存在である。

以下、存在構文からその特徴を記述していく。

3．3．1．存在

A1.［場所］ニ　N（具体物・人）　バカリ　ガ　V［存在性動詞］

「排他的複数存在」を表す「ばかり」は典型的には存在性動詞を述語とする構文で用いられる。「存在性動詞」には、「ある、いる」のような存在動詞と、「並ぶ、並んでいる、残る、残っている」のような位置変化の動詞のル形とテイル形などがある。「ばかり」にとりたてられるもの・人は複数性を有するものでなければならないため、「ばかり」が時間的に個別具体的な存在を表す時は、前接名詞は基本的に不特定多数の具体物・人である (9) (10)。しかし、茂木 (2002) にも述べられているように、述語が反復相である場合は、「ばかり」に固有名詞が前接することができる（11)。

この構文では、「ばかり」がある場所に、具体物または人が複数個存在する、あるいは複数回存在するという意味を表す。

(9)　ここにいる皆さんはそんなにお金持ちなのでしょうか？？勝ち組ばかりいるのでしょうか？　（Yahoo!知恵袋）

(10)　（店の前を通った瞬間）若い人ばかりが並ぶわね。

(11)　教室の前の席には、いつも太郎ばかりが座っている。

a1−1．N の存在の焦点化：V　ノハ　N(具体物・人)　バカリ　ダ。

存在構文の動詞述語が主題化され、「ばかり」にその動詞が表す事態の実現にあたって存在する具体物・人が前接するという存在構文の倒置文もしばしば見られる。倒置文は通常の語順を逆にして、文の焦点を主語である名詞に置く特徴がある。倒置文では、文の焦点を名詞に置くことによって、「ばかり」の前接名詞が当該事態の発生にあたって大多数を占める存在であるという排他性を強く表すことができる。前接名詞をフォーカスし，かつ排他性を表す「ばかり」

は、この倒置構文と親和性が高いのだろう。

（12）では、原野にあるもの中で、葦が大多数を占める存在で、葦以外ほぼ何もないことが表されている。

（12）　行けども行けども、原野であった。枯れ葦が積雪から出ている。あるのは葦ばかりだ。（西村寿行『犬笛』）

（13）　段ボールに入っているのは本ばかりであった。（中上　紀『パラダイス』）

3．3．2．場所占有

A2.［場所］　ハ　N（不特定多数の具体物・人）　バカリ　ダ。

場所が主題に立ち、「ばかり」に不特定多数の具体物・人が前接する。この構文は、ある場所が「ばかり」の前接名詞に占められているという意味を表す。（14）では、「ばかり」が用いられることによって、「平日の昼間のバス」は「老人」に占められている様子を表す。

（14）　平日の昼間のバスは老人ばかりだった。（中山可穂『白い薔薇の淵まで』）

（15）　会社は大人ばかりで、…（伊藤愛子『プロ会社員が組織を動かす』）

a2−1．特徴づけ：　N1（不特定多数の具体物・人）　バカリ　ノ　N2（場所）

この構文は「ばかり」が名詞修飾句内に使われる構文である。茂木（2003）は名詞修飾句内の「ばかり」について、「N1 ばかりの N2」を 3 つのタイプに分けている。「ばかり」の意味が「排他的複数存在」と解釈される時の「N１ばかりのＮ２」は、茂木（2003）での「存在タイプ」にあたる。茂木（2003: 70）では、「存在タイプ」について、「の」は動詞「いる、ある」に相当し、N2 は N1 が存在する場所だと述べている。さらに、「N1 ばかりの N2」は「N2 は N1 ばかりだ」に言い換えられ、このような名詞述語文でも存在解釈が同様に得られるとする。また，この構文には、全体 N2 を存在物 N1 の数もしくは割合によって特徴づけるという叙述関係が認められるとも述べている。（16）では、「家」に「女が多い」という特徴づけが表されている。

（16）　女ばかりの家に育ちながら、逆に、周りにいる親戚の子供たちはみんな男の子だったので、幼い頃から男の子の遊びばかりしていたように思います。（武田博子『ソフトテニス入門』）

（17）　屋根があっても登れない家やマンションばかりの日本では、パリの猫たちのように屋根から屋根へと恋の歌をうたいながら散歩することができないのです。（伴田良輔『猫語練習帳』）

3．3．3．時間占有

A3.時間占有：［時間］　ハ　N（不特定具体物・人）　バカリ　ダ。

時間名詞が主題に立ち、「ばかり」に不特定多数の具体物・人が前接する。この構文は、ある

時間において「ばかり」の前接名詞が数多く存在するという意味を表す。(18) では、「ばかり」が用いられることによって、「昔」において、「深めのもの」が大多数を占める存在であることが表されている。

(18)　シマロンは、股上が深めのものと浅めのもの両タイプありますよ！昔は深めのものばかりでしたが、何年か前から浅めのものも出ています。(Yahoo!知恵袋)

(19)　誰だってはじめは知らないことばかりだったのに、レバノンに入ると、レバノン杉の林やオリーブ畑がひろがっていた。(森　詠『戦場特派員』)

3．4．排他的反復動作の意味を表すバカリ

「排他的反復動作」を表す「ばかり」が限定するのは動作・出来事の発生である。「ばかり」が動作・出来事の発生を限定する際には、範列関係にある対比される他の事態が想起される。しかし、「ばかり」が取り立てられる当該事態が起こる頻度が高いため、時間軸上で当該事態に埋もれているように見え、対比される他の事態の存在が希薄化し、当該動作に集中するという排他性を表す。

「排他的反復動作」の意味と解釈される「ばかり」については、前接動詞の性質や前後文のパターンによって、「通常の反復動作」、「変化の一方進行」、「一連の出来事の最終段階」、「選択肢の単一性」の 4 つの下位タイプに分けた。「通常の反復動作」では、「ばかり」に前接する動詞はスルとシテイル形が用いられるのに対し、「変化の一方進行」、「一連の出来事の最終段階」、「選択肢の単一性」と解釈される「ばかり」の前接動詞はスル形のみが用いられる。

「排他的反復動作」の「ばかり」のフォーカスは具体的には 4 節で述べる。

以下、「排他的反復動作」の意味と構文について記述していく。

3．4．1．通常の反復動作を表すバカリ

B1．構文形式：V（動作動詞）スル／シテイル　バカリ　ダ。

「通常の反復動作」と解釈される「ばかり」は、「ばかり」に取り立てられる動作が繰り返して反復される意味を表す。最も典型的な構文は「ばかり」が動作動詞に後接するパターンである。

小林（2003）は動詞に後接する「ばかり」をいくつかの形態に分け、それぞれの意味を記述している。そのうち、「V ルばかり」と「V テイルばかり」のような「するばかり」と「てばかり」の区別については、「辞書形ばかり」は事態を分割せず、丸ごと指し示す働きを持つと述べている。例えば、(20) では，「ばかり」が「仕事に打ち込む」という動作が何度も繰り返されるのに対して、それと対比される動作である「泣き言めいたことをいう」がほぼ行われていないという意味を表す。

(20)　彼は生涯、泣きめいたことをいったためしがなく、終始黙々と仕事に打ち込むばかりだ

った。（金　日成『金日成回顧録』）

（21）　何がふがいないかとなだめても、理由を尋ねても、首を振るばかりだった。（宮部みゆき『理由』）

さらに、「通常の反復動作」の意味に解釈される文に目立つパターンとして、以下の３つを取り出した。

b1-1．Ｎの特徴を際立たせる反復動作：

（22）　彼は同じことばかりを繰り返している。

b1-2．動作の反復による特徴づけ：

（23）　仕事ばかりの休日

（24）　子供を叱ってばかりの自分

b1-3．高頻度のためマイナス評価を伴う反復動作：

（25）　学校の勉強があるのに、彼は遊んでばかりいる。

（26）　最近は外食ばかりで、太ってしまった。

以下、順に詳しく記述していく。

b1-1．Ｎの特徴を際立たせる反復動作

N-バカリ-格助詞　V（意志的・無意志的）

V 具体例：意志的動詞：走る、勝つ、やる、作る…

無意志的自動詞：流れる、目立つ、浮かぶ、膨らむ…

3.4.1 節の最初で見たように、「排他的動作の反復性」の典型的な構文タイプは「ばかり」が動詞に後接するものであった。しかし、このタイプ A の構文では、「ばかり」が動詞に後接することなく、「排他的動作の反復性」の意味を表す。この構文に用いられる動詞は、典型的には意志的動詞（27）であるが、（28）のような無意志的自動詞を用いることもできる。無意志動詞の場合は，主語が人の体の部分であるか、「（頭に）考えが浮かぶ」のように，主体としての人が含意される場合に限る。このタイプでは「ばかり」が助詞に後接する例が見られる。格助詞の「が」や「を」には後接しないが、（29）のような引用の「と」や、（30）のような動作の相手や着点を表す「に」、原因と動作の出発点を表す「から」，場所や範囲を表す「で」等が見られる。

さらに、「ばかり」は動作・出来事が繰り返される意味を表すだけではなく、「ばかり」の前接名詞をフォーカスし、前接名詞を際立たせる機能も持っている。例えば、（24）では、「ばかり」が「プログラミングをやる」という動作の繰り返しを表すだけはなく、フォーカスを「プログラミング」に置き、「大学の勉強」にはない「プログラミング」の「面白くて楽しい」という特徴を際立たせる機能を持っている。（29）と（30）のような「ばかり」の前接語が助詞であ

る場合、その助詞を超えて前の名詞句をフォーカスして際立たせる。

（27）　どちらかというと大学の勉強よりは、はるかにプログラミングの方が面白くて楽しいため、いろいろ自分で理由をつけながら納めるまではプログラミングばかりをやっていたのです。（吉村隆樹『パソコンがかなえてくれた夢』

（28）　夜寝ると眼の前に焼け跡の光景ばかり浮かんで、焼死者や水死者の姿が見えて仕方がない。（松本　哉『寺田寅彦は忘れた頃にやって来る』）

（29）　ノエルのことだから、てっきり軍事クーデターでも起こして日本を乗っ取るものだとばかり思っていました、（あすか正太『恋する国家権力』）

（30）　それなのに、よくできる子にばかり目を向けているのは、先生の怠慢ではないだろうか。（田中　澄江『子供にいい親悪い親』）

さらに、(31) のように、述語部分が省略される例もしばしば見られる。(31) では、「ばかり」に「考える」などが後続すると考えられる。

（31）　お子さまたちは、みんな金のことばかり。（赤川次郎『泥棒よ大志を抱け』）

b1−2．動作の反復による特徴づけ

このタイプの「ばかり」は前接動作が繰り返されることによって、修飾される名詞が特徴づけられるという意味を表す。

①N1（動作性動名詞）　バカリ　ノ　N2

このタイプでは、「ばかり」の前接語である N1 は動作的動名詞である必要がある。「N１ばかりのＮ２」は「N1 ばかりする N2」に言い換えられる（茂木 2003）。この構造は茂木（2003）が述べた名詞修飾内の「ばかり」とした中の「事象タイプ」に対応する。N1 をする頻度が高いことによって、N2 が特徴付けられる。(32) では、アルバイトするという動作が繰り返されることによって、「毎日」が特徴づけられている。

（32）　高校を辞めてアルバイトばかりの毎日を過ごして（勿論掛け持ち）３ヶ月で一人暮らしを始めました。（Yahoo!知恵袋）

（33）　衝突ばかりの二人だが、いつしか互いの寂しさに触れ、気持ちを通い合わせる。（北海道新聞）

②　Vテ バカリ ノ N

この構文では、「ばかりの N」に「V て」が前接し、①と同じように、前接動詞が表す動作が繰り返されることによって、N が特徴づけられるという意味を表す。しかし①と違って、この構文では、マイナス評価が読み取れる。これは，このタイプが次の b1-3「高頻度のためマイナス評価を伴う反復動作」の連体修飾の形だからである。(34) では、「叱っている」という動作をする場面が何度も観察され、望ましい限度を超えているというマイナス評価が読み取れる。

（34）　子育てへの不安が募り、子どもを叱ってばかりの自分に対する苛立ちが文面にあふれ、…（佐藤博樹/武石恵美子『男性の育児休業』）

（35）　騙されてばかりの、駄目主婦です。（Yahoo!知恵袋）

b1−3．高頻度のためマイナス評価を伴う反復動作

このタイプの「ばかり」は、とりたてられる動作の行われる頻度が望ましい限度を超えたため、マイナスに評価されるという意味を表す。具体的には、２つの構文パターンがある。

①　V テ−バカリ−イル

小林（2003）は「てばかり」が表す「反復的動作」を、動作をしている期間の中のどの時点を切り取っても、当該行為の途中の局面が発見されると主張している。例えば、（36）では、その期間の中の「俺」を観察するたびに、「遊んでいる」のが観察できる。さらに、望ましいと思われる限度を超え、悪い結果に至るというマイナス評価が読み取れる。

BCCWJ から、「V テ−バカリ−イル」を 100 例抽出し分析した結果、「ばかり」がマイナス評価を表す例は 69 例、評価に中立的な例は 31 例であった。マイナス評価の例が半分以上を占める。小林（2003: 13）では、「てばかり」文は常にマイナス的評価があるとしている。マイナスに評価される例は確かに多いが、「常に」とは言えないのであろう。

（36）　色々あって、俺も遊んでばかりいられないから、ちょっぴり本気を出すことにしたんだよ。（十文字　青『薔薇のマリア』）

（37）　あなた達、本当に仕事やる気あるの！　甘えてばかりいるんだから。（三橋一廣『愛のひとしずく』）

②　N（動作性動名詞）／V テ　バカリ　デ、〈マイナス評価〉

このタイプでは、「ばかり」の前接語は「料理、会議、出張」といった動作性動名詞、または動詞のテ形である。「N ばかりで」にはしばしばマイナスの評価を表す文が後続する。

（38）では、「ばかり」の前接語である「言い訳」は元々マイナスの意味を帯びるので、文全体からは自然にマイナスの評価が読み取れる。それに対し、（39）では、「ばかり」の前接語である「子供のことと天気の話」は、それ自体はマイナスの意味を含まない語であるが、後続節に明確なマイナス評価を表す表現がある。

（38）　天下の旗本などと調子はいいが、内情は火の車じゃないか。なんのかんのと**言い訳**ばかりで、ちっとも返済しようとしない。（池内　紀『はなしの名人』）

（39）　それに、お母さんたちと話していても、**子どものことや天気の話**ばかりで、楽しくありません。（今泉岳雄/畑山伊佐枝『お母さんひとりで悩まないで』）

BCCCWJ から収集した例を分析すると、マイナス評価の意味を表すパターン 1 とパターン 2

に用いられる「ばかり」は常にNフォーカスをとり、フォーカスされる要素は前接動名詞ないし動詞となっている。

b1-4 その他の通常の反復動作

BCCWJから収集した用例の中には、(40)のように形容詞が「ばかり」に前接する例が一例ある。典型的な反復動作ではないが、「眠い」という状態が何度も観察されると解釈できるので、「通常の反復動作」の周辺として位置づける。

(40) 心浮き立つ季節だが、キオはただ眠いばかりで、余計なことを考える余裕はない。(中里 融司『星忍母艦テンブレイブ』)

以上、「通常の反復動作」について述べてきた。以下では、「排他的反復動作」の他の3つの下位タイプについて述べる。

3．4．2．変化の一方進行を表すバカリ

構文形式：V(方向性のある変化動詞のスル形)バカリ

変化動詞具体例：増える、減る、増やす、減らす、増加する、減少する、上がる、下がる…

「変化の一方進行」は様々な変化の方向がある中で、1つの方向に集中して変化していくという意味を表す。

この構造を構成する動詞は方向性のある変化を表す動詞である。小林(2003)は、このタイプの「ばかり」を「一方向への進行」と名付けている。さらに、小林(2003)は「ばかり」に前接する動詞について、スル形のみが用いられると述べている。

また、「変化の一方進行」の意味を表す「ばかり」文には、一方向に変化していく条件または要因が先行文に現れることが多い。(41)では、「連戦勝利」と「政府が一財産築かせている」という条件があって、株はほとんど下がることなく、上がる方向に変化していくという意味を表してる。

(41) 連戦連勝の栄光を祖国に添えるのみならず、政府にも一財産築かせているので、ボナパルトの株は**上がる**ばかりである。(佐藤賢一『オール讀物』)

(42) 国や地方自治体の債務を膨らませる政府の姿勢は、失望感を**広げる**ばかりである。(王曙光『中国製品なしで生活できますか』)

3．4．3．一連の出来事の最終段階を表すバカリ

構文形式： ［済まされた事項］。あとは、V(意志動詞スル形) バカリ ダ。

小林(2003)は、他の準備事項が全て済まされ、やり残したことは「ばかり」が取り立てる当該事象に限られるという意味を表す「ばかり」を「完了への近づき」と名付けている。本研

究では、一連の出来事のうち、前の段階を全て終わらせ、「ばかり」に取り立てられる最終段階をやればいいであることを重視し、「一連の出来事の最終段階」と名付ける。(43) では、「和解の手続きは 3 月に終わり」という、「判事の承認」が出るまでの一連の流れが済まされ、残りは「判事の承認を待つ」ことのみであることを表す。

(43)　司法省と「和解派」9 州が、昨秋から同社と進めてきた和解手続きは３月に終わり、**あとは**判事の承認を待つばかり。　(小林 2003: 10)

(44)　ローストチキンが３皿出来上がりました♪美味しそうに出来上がったので、お客様の到着を待つばかりです！（Yahoo!ブログ）

小林（2003）では、この用法の特徴として、「あとは」「もはや」などの副詞としばしば共起するとも述べている。

3．4．4．選択肢の単一性を表すバカリ

構文形式：[他にできることの存在を否定する]　ただ V （スル形）バカリ ダ

「選択肢の単一性」を表す「ばかり」は、他の事項が済まされたかどうかは分からず、本意ではないかもしれないが、今の段階でできることは「ばかり」が取り立てる当該事態しかないという意味を表す。文には、「仕方がなくそうするしかない」のような感情が含まれる。この用法では、「ただ」などの副詞と共起する例が多い。(45) では、「その子」の命が奪われて、何をしてあげようと思っても、どうしようもできない、できるのは「ご冥福を祈る」のみであるということ表す。

(45)　しかしだからといってその子の命を奪うというのはあまりにも悲しすぎますよね…今は**ただ**その子のご冥福をお祈りするばかりです。(Yahoo!ブログ)

(46)　春吉君はどうしていいのか解らない。もう成行に任すばかりだ。(新美　南吉『列車;小僧の神様』)

以上のような「一連の出来事の最終段階」と「選択肢の単一性」という解釈ができるのは、「ばかり」に「排他性」の意味があるからである。両者の違いとしては、「一連の出来事の最終段階」と解釈される「ばかり」の前文脈には、「終わり、完了、出来上がり」など、事態の実現を肯定するような表現が現れる。対比される他の事態が全て済まされ、残りは「ばかり」に取り立てられることをやればいいという意味を表す。他の事態の実現必要性を否定している。

それに対し、「選択肢の単一性」と解釈される「ばかり」の前文脈には、「できない、わからない」など、事態の実現を否定するような表現が現れる。対比される他の事態が想定されるが、それが状況や個人の能力不足により実現不可能であると想定され、他の事態は「ばかり」の排他性によって排除され、仕方なく「ばかり」に取り立てられる動作をするしかないという意味を表している。「選択肢の単一性」は範列関係にある他の動作が実現する可能性あるいは必要性

を否定している。

4. バカリの意味、構造及びフォーカスとの関係

本節では、「ばかり」の各意味及び構文とフォーカスとの関係について記述する。

「ばかり」のフォーカスには大きく2種類ある。名詞句をフォーカスするものと、事態全体をフォーカスするものである。沼田（2000）では、「ばかり」のフォーカスを分析する際に、「ばかり」の前後文脈に同じ述語句、または同義の述語句が現れているかどうかによって判断すると述べている。本研究では、沼田（2000）の主張に従って、「ばかり」の前後文脈に、同類の意味の述語が表れている場合（48）、「ばかり」が節内のどの位置にあろうが、当該節内の名詞句をフォーカスしうると考える。同類の意味の述語とは、同じ述語（47a）または同じ述語に言い換えられる意味の近い述語（47bにおける「握る」「占有する」）である。これに対し、同類の意味の述語が前後に共起していない場合[(4)]（49）は、事態全体がフォーカスとなる。

（47） a. 彼はおやつばかりを食べて、ちゃんとご飯を食べない。
b. 彼女は会社の人事権ばかり握っているのではなく、経理権を占有しています。
＝彼女は会社の人事権ばかりではなく、経理権も占有しています。

（48） a. 彼はアニメ[(5)]を見るばかりで、ニュースを見ない。
b. 彼はアニメばかり見て、ニュースを見ない。

（49） a. 彼はアニメを見るばかりで、宿題を全然やらない。
b. 彼はアニメばかりを見て、宿題をやらない。

さらに、本稿では、沼田（2009）のフォーカスに関する記述を参考にしながら、「ばかり」のフォーカスを2種類に分ける。直前の要素をフォーカスする「直接フォーカス」（沼田のNフォーカスに相当）と、直前の要素と離れた位置にある名詞句、述語句をフォーカスする「拡大・縮小フォーカス」（沼田のBフォーカスとFフォーカスに相当）である。以下、各意味を表す構文がどのフォーカスを取るのかを具体的に分析していく。

「排他的複数存在」の意味に解釈される「ばかり」は常に前接名詞をフォーカスし、直接フォーカスとなる。存在構文が常に名詞をフォーカスするのは、（50b）のような存在と対比される他の事態が想起しにくいからである。このため、存在と対比されるのは常に非存在であると考えられる。よって、「排他的複数存在」を表す「ばかり」は【直接フォーカス】を取る。

（50） a. 教室には女の子ばかりがいて、（男の子がいない）。
b. *教室には女の子ばかりがいて、男の子たちはご飯を食べている。

「排他的反復動作」については、「ばかり」の前接語が名詞であるか動詞であるかを構文タイプによって分けて分析する。まず、「ばかり」の前接語が動詞である場合について考察する。同類の意味の述語が前後にある場合、「ばかり」は常に名詞句をフォーカスするため、動詞述語で

はなく、節内の名詞句をフォーカスすることになる（51a）。つまり、【拡大・縮小フォーカス】になる。これに対し、（51b）では、「ばかり」の前後に同類の述語を共有していないため、「ばかり」はそのまま前接述語をフォーカスし、【直接フォーカス】となる。

（51）　a. ニュースを見ずに、アニメを見るばかりだから何が起きているのかわからないわけ。
　　＝ニュースを見ずに、アニメばかりを見ているから何が起きているのかわからないわけ。
　　b. 彼はアニメを見るばかりで、宿題を全然やらない。

次に,「ばかり」に名詞が前接する場合では、前後文脈に同類の意味の述語を共有しているなら、常に名詞句をフォーカスするため直接フォーカスになる（52a）。一方,（52b）のように、同類述語を共有していない場合、「ばかり」は述語までをフォーカスし、【拡大・縮小フォーカス】となる。

（52）　a. 彼は好きなお肉ばかりを食べて、野菜を全然食べない。
　　b. 彼は水を飲まずに、辛いおかずばかりを食べていた。

以上述べてきた「ばかり」の構文タイプとフォーカスの関係を表 1 にまとめる。

表 1 「ばかり」の構文タイプとフォーカスの関係

「ばかり」の前接語の品詞	同類の意味の述語の有無	フォーカスする要素	フォーカスの種類
動詞	有	名詞句	縮小フォーカス
	無	前接述語	直接フォーカス
名詞	有	前接名詞	直接フォーカス
	無	述語まで	拡大フォーカス

５．まとめと今後の課題

本稿では、「限定」を表す「ばかり」の意味を再分類し、各意味を支える構文パターンについて記述した。

まず、「ばかり」が限定するのがモノ・ヒトの存在であるか、動作・出来事の発生であるかによって、「ばかり」の意味を大きく「排他的複数存在」と「排他的反復動作」に分けた。さらに、「排他的複数存在」の下位タイプには、「存在」、「場所占有」と「時間占有」を立てた。「排他的反復動作」については、「通常の反復動作」、「変化の一方進行」、「一連の出来事の最終段階」、「選択肢の単一性」に下位分類した。

次に、本研究では、沼田（2000、2009）などにおけるとりたて詞のフォーカスに関する一般

的な記述をもとに、「ばかり」の場合に特化して構文タイプと意味用法、フォーカスの関係を整理した。「ばかり」の前接語の品詞と前後文脈に同類の意味の述語の有無によって、「ばかり」のフォーカスを【直接フォーカス】と【拡大・縮小フォーカス】に分けた。しかし、この結論が他のとりたて詞のフォーカスを分析する際に適用できるかどうかは個別に検証する必要がある。この点については、今後の課題として別稿で議論したい。

注

（1）BCCWJ から抽出した例文は出典を明記する。出典のないものは作例である。

（2）「自者」とは、とりたて詞がとりたてる文中の要素であり、「他者」はそれに端的に対比される「自者」以外の要素である。例えば、以下の例では、「も」があることで、b の意味に解釈されると同時に、c の意味が暗示される。この場合の「太郎」が「も」のとりたてる自者であり、「太郎以外」が他者である。

a．太郎も学校に来る。b．太郎が学校に来る。c．太郎以外が学校に来る。

（沼田 2009:37-38）

（3）本研究が対象とする「限定」を表す「ばかり」は沼田（2009）を参考にする。「限定」のとりたて詞「ばかりは分布の自由性、任意性、連体文内性、非名詞性を備えている（沼田 2009: 205 ）。

（4）範列関係にある他の事態及び参与者が必ずしも文中に明示されない場合もある。

（5）「ばかり」がフォーカスする要素を網掛けにする。

参考文献

奥津敬一郎・沼田善子・杉本武（1986）『いわゆる日本語助詞の研究』 凡人社.

小林可奈子（2003）「動詞の後続する限定の「ばかり」」『日本語・日本文化』 29: pp.1-16.

金水敏・工藤真由美・沼田善子（2000）『時・否定と取り立て』 岩波書店.

定延利之（2001）「探索と現代日本語の「だけ」「しか」「ばかり」」『日本語文法』 1-1: pp.111-136.

澤田美恵子（2007）『現代日本語における「とりたて詞」の研究』 くろしお出版.

中西久実子（2012）『現代日本語のとりたて助詞と習得』 ひつじ書房.

沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』 ひつじ書房.

茂木俊伸（2002）「「ばかり」文の解釈をめぐって」『日本語文法』 2-1: pp.171-189.

茂木俊伸（2003）「名詞句内のとりたて詞「ばかり」について」『日本語と日本文学』 36: pp.68-79.